

**製品名: CTCF ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21164**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:83kD;Observed MW:140kD

**抗原情報**

遺伝子名	CTCF
別名	CTCF;Transcriptional repressor CTCF;11-zinc finger protein;CCCTC-binding factor;CTCFL paralog
遺伝子 ID	10664.0
SwissProt ID	P49711
免疫原	ヒト CTCF の合成ペプチド

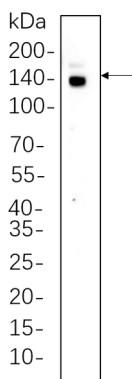
**背景**

細胞局在: 核。この遺伝子は BORIS + CTCF 遺伝子ファミリーのメンバーであり、11 個の高度に保存されたジンクフィンガー (ZF) ドメインを持つ転写調節タンパク質をコードしています。この核タンパク質は、ZF ドメインの様々な組み合わせを用いて、異なる DNA 標的配列およびタンパク質に結合することができます。結合部位の状況に応じて、このタンパク質はヒストンアセチルトランスフェラーゼ (HAT) を含む複合体に結合して転写活性化因子として機能するか、ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) を含む複合体に結合して転写抑制因子として機能することができます。このタンパク質が転写インシュレーターエレメントに結合すると、エンハンサーと上流プロモーター間の情報伝達を遮断し、インプリント発現を調節することができます。この遺伝子の変異は、浸潤性乳がん、前立腺がん、およびウィルムス腫瘍と関連付けられています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。

## 研究分野

-

## 画像データ



HEK293 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を CTCF ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。